

### Ⅲ. 実証実験における効果測定結果

#### 1. 試乗モニター募集方法

##### (1) モニターの考え方

DMV に対する評価また公共交通活性化に対する意向を把握するため、各便には「試乗モニター」が乗車し、モニターを対象に DMV の試乗体験を基にしたアンケート調査を実施することとした。

各実証運行における試乗モニターの募集は、各ルートの運行目的を踏まえ、次表の考え方に沿って行った。

名称	地元モニター	一般モニター	特別モニター
乗車ルート	地域周回ルート	観光周遊ルート	地域／観光ルート
目的	日常の移動において南阿蘇鉄道に 乗車機会がある方を対象にして、 日常の移動における DMV 利用の 可能性を捉える	新幹線くまもと創りプロジェクト における横軸交通網の強化に向け て、公共交通を利用した観光活 性化の可能性を捉える	地域公共交通活性化、DMV 導入 促進の観点から各機関の代表者 を招待する
対象	南阿蘇鉄道沿線に居住する方 (高森町民、南阿蘇村民)	居住地は指定しないが、公共交 通機関で来訪いただける方	関係機関の代表者等 (行政、交通・観光事業者、学 識経験者等)
乗車資格	特に設定しない ※12才(小学生)以下は保護者 が必要	15才(高校生)以上とする	対象者については協議会事務局 にて検討する

##### (2) 募集方法

運行ルートにより試乗対象者が異なることから、試乗モニターの募集はそれぞれのルート毎に以下のとおり行った。

###### ① 地元モニター

居住地域や個人の属性(高齢者や学生等)に応じて様々な角度から地域の公共交通に関する意見を把握する必要があることから、地元団体(自治会、老人会、婦人会等)からの推薦により試乗モニターを募集した。

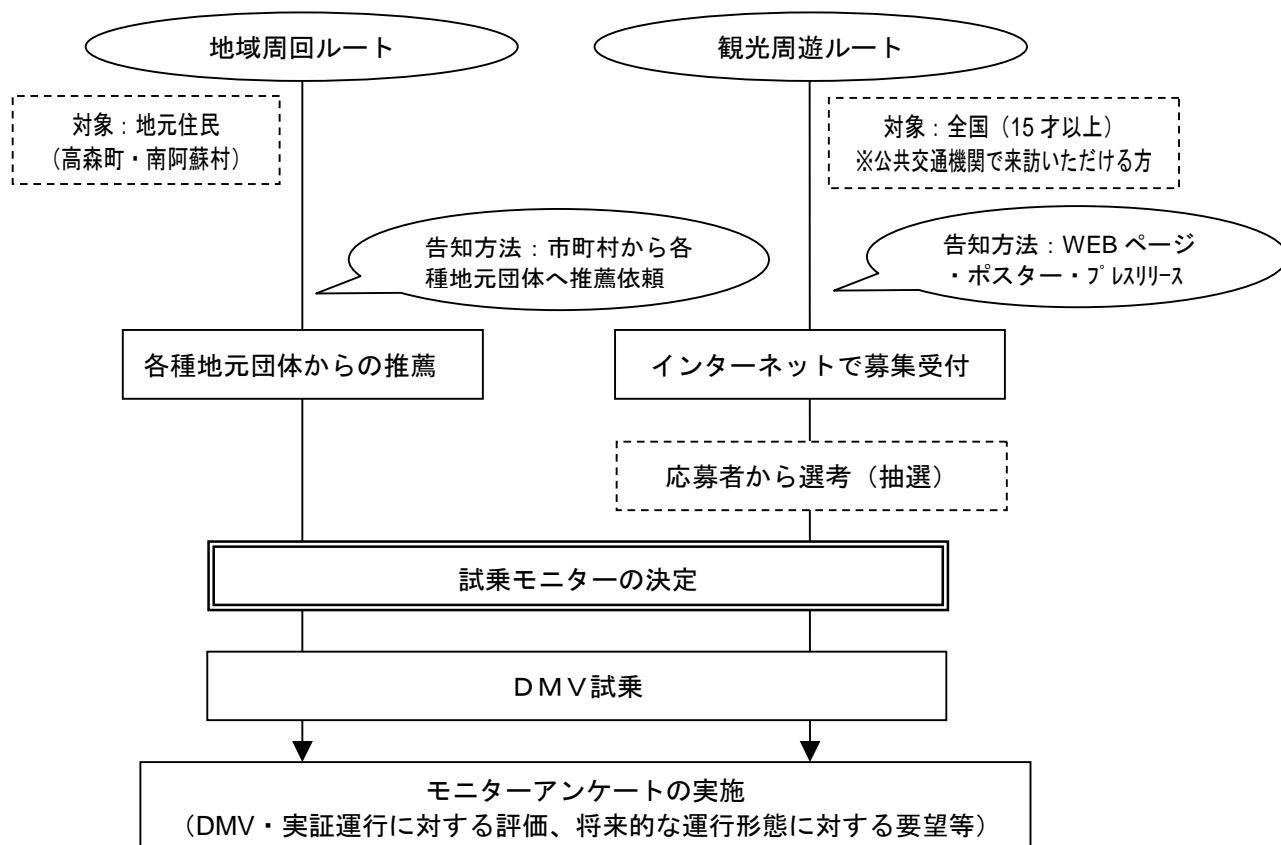
###### ② 一般モニター

公共交通の利便性向上による観光活性化について様々な意見を幅広く把握する必要があることから、ポスターの掲示や報道機関への資料提供等により周知を行いながら、インターネットより募集を行った。

###### ③ 特別モニター

協議会事務局にて候補を選出した。

### 【試乗モニター募集・決定フロー】



## 2. 一般モニター募集結果

試乗モニターについては、以下の人員の募集を計画した。

種別	一般モニター	地元モニター	特別モニター
人員数	77名	62名 内訳：高森町 32名 南阿蘇村 30名	54名

このうち、公募で募集した一般モニターの募集状況及び募集時に実施したアンケート調査の結果を示す。

### (1) 応募総数

- ・ 応募総数：246件
- ・ 同行者を含む応募者数合計：413人

### (2) 運行便毎の応募の状況

	3/20	3/21		3/22			
	第2便	第1便	第2便	第3便	第1便	第2便	第3便
選考定員	12名	9名	9名	16名	16名	7名	8名
第1希望	124名	13名	33名	67名	8名	99名	69名
第2希望	49名	12名	60名	34名	30名	105名	109名

※ すべて同行者を含む人数。

※ 第1希望と第2希望は重複する。

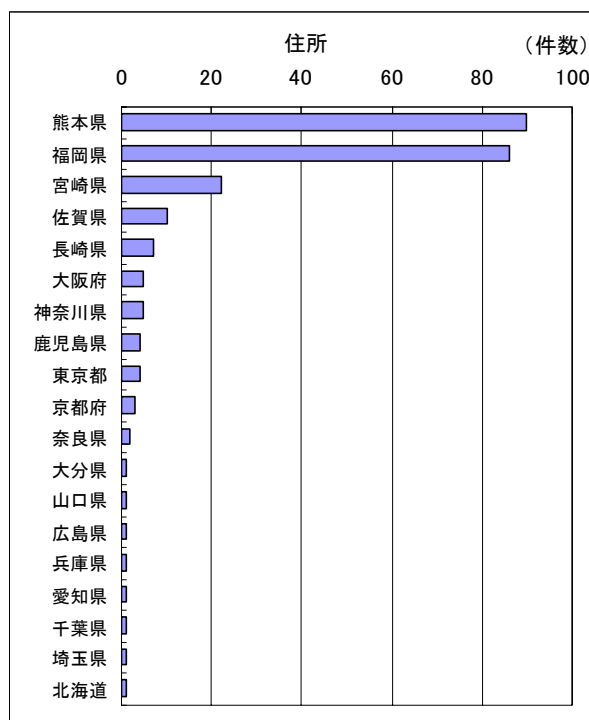
### (3) 応募の概要

#### ① 個人属性（応募者本人のみ）

##### ○ 住所

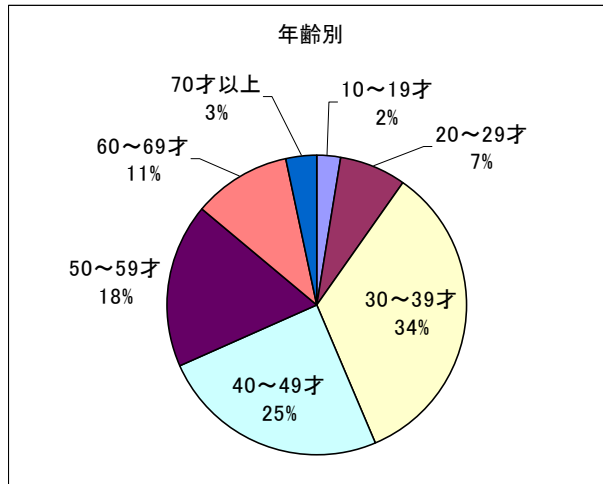
約9割が九州内からの応募であったが、関西や関東など幅広い地域からの応募があった。

住所	計
熊本県	90
福岡県	86
宮崎県	22
佐賀県	10
長崎県	7
大阪府	5
神奈川県	5
鹿児島県	4
東京都	4
京都府	3
奈良県	2
大分県	1
山口県	1
広島県	1
兵庫県	1
愛知県	1
千葉県	1
埼玉県	1
北海道	1
<b>総計</b>	<b>246</b>



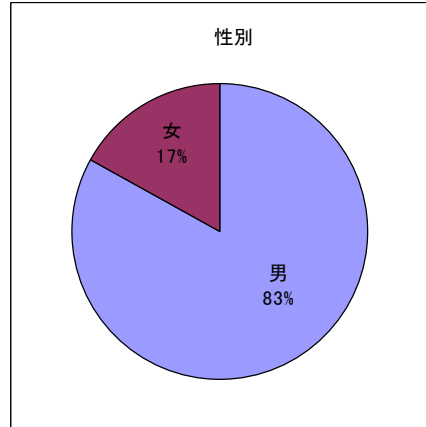
○ 年齢

年齢	計
10～19才	6
20～29才	18
30～39才	83
40～49才	61
50～59才	44
60～69才	26
70才以上	8
<b>総計</b>	<b>246</b>



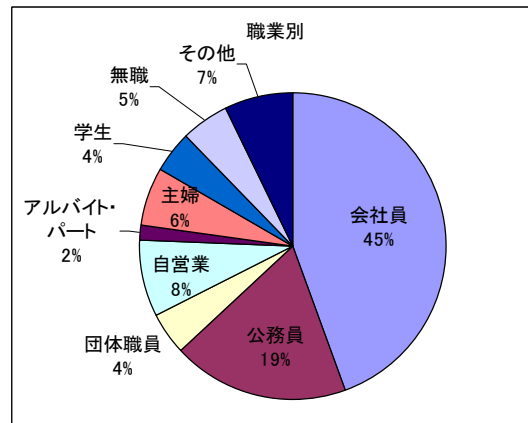
○ 性別

性別	計
男	204
女	42
<b>総計</b>	<b>246</b>



○ 職業

職業	計
会社員	109
公務員	46
団体職員	11
自営業	20
アルバイト・パート	4
主婦	15
学生	11
無職	12
その他	18
<b>総計</b>	<b>246</b>

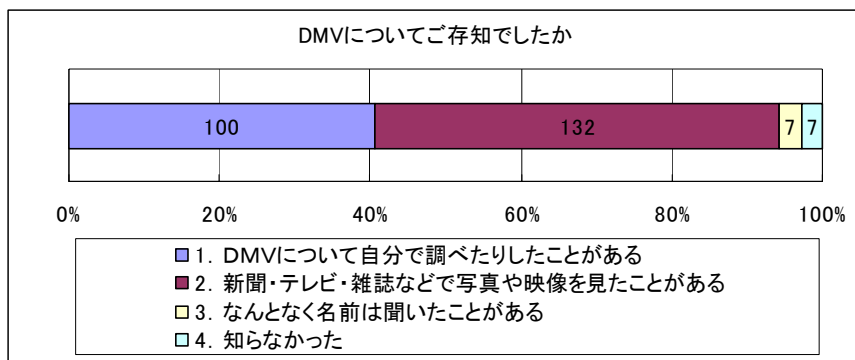


## ② DMVに関する質問

### ○ DMVの認知

応募者のうち、およそ95%がなんらかの形でDMVを認知しており、DMVに関心を持っている層が積極的にホームページにアクセスして応募に至ったものと考えられる。

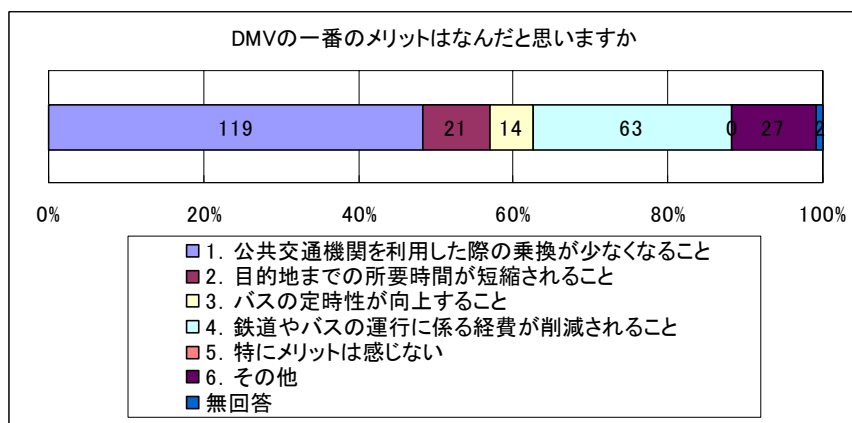
DMVについてご存じでしたか(択一)	
1. DMVについて自分で調べたりしたことがある	100
2. 新聞・テレビ・雑誌などで写真や映像を見たことがある	132
3. なんとなく名前は聞いたことがある	7
4. 知らなかった	7
<b>総計</b>	<b>246</b>



### ○ DMVのメリット

全体の5割近くが乗換の軽減をメリットとして捉えており、DMVの特徴として「道路と線路が自由に行き来できること」がPRされている結果が表れているものと考えられる。また、経費削減に関する意見も約25%ほど挙げられている。

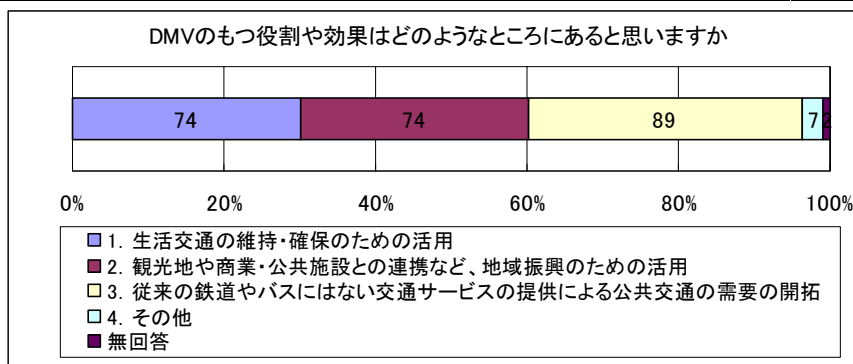
DMVの一番のメリットはなんだと思いますか(択一)	
1. 公共交通機関を利用した際の乗換が少なくなること	119
2. 目的地までの所要時間が短縮されること	21
3. バスの定時性が向上すること	14
4. 鉄道やバスの運行に係る経費が削減されること	63
5. 特にメリットは感じない	0
6. その他	27
無回答	2
<b>総計</b>	<b>246</b>



○ DMVの役割や効果

DMVの役割や効果については認識が分かれており、生活及び観光交通の両面から、利用にあたって重視されるべき項目を調査する必要がある。

DMVのもつ役割や効果はどのようなところにあると思いますか(択一)	
1. 生活交通の維持・確保のための活用	74
2. 観光地や商業・公共施設との連携など、地域振興のための活用	74
3. 従来の鉄道やバスにはない交通サービスの提供による公共交通の需要の開拓	89
4. その他	7
無回答	2
<b>総計</b>	<b>246</b>

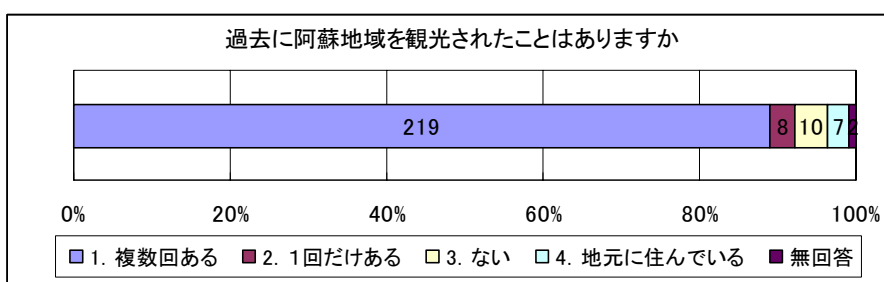


### ③ 阿蘇地域に関する質問

#### ○ 阿蘇地域の観光経験

応募者の約 9 割が阿蘇地域の観光を複数回経験しており、阿蘇地域への関心が高い層からの応募が多かったことが示された。

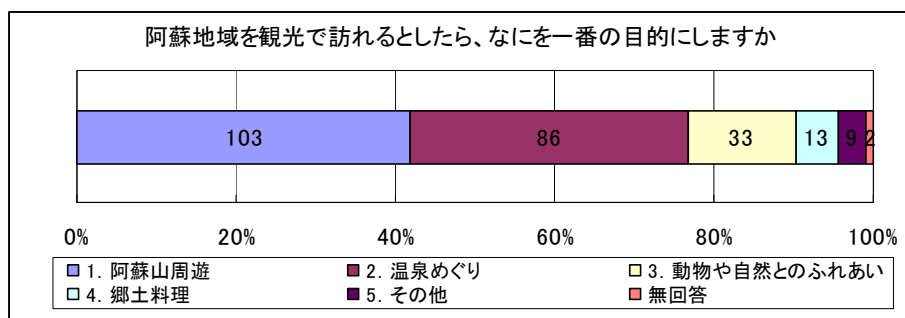
過去に阿蘇地域を観光されたことはありますか(択一)	
1. 複数回ある	219
2. 1回だけある	8
3. ない	10
4. 地元に住んでいる	7
無回答	2
<b>総計</b>	<b>246</b>



#### ○ 阿蘇地域の観光目的

応募者の約 8 割が阿蘇地域の観光目的として、阿蘇山または温泉を挙げており、DMV を観光交通として捉える場合には、ルート設定などにこれらの観光客のニーズを考慮する必要がある。

阿蘇地域で観光するとしたら、なにを一番の目的にしますか(択一)	
1. 阿蘇山周遊	103
2. 温泉めぐり	86
3. 動物や自然とのふれあい	33
4. 郷土料理	13
5. その他	9
無回答	2
<b>総計</b>	<b>246</b>



○ 阿蘇地域での印象深い観光地

また、阿蘇地域での印象に残っている観光地または行ってみたい観光地について尋ねたところ、主要な観光地として阿蘇山、温泉、水源が挙げられている。また、鉄道関連施設（南阿蘇鉄道やスイッチバックなど）も観光地として一定の印象を与えている。

問. 阿蘇地域で印象に残っている観光地、または行ってみたいと思う観光地があれば教えてください

阿蘇山一帯	
草千里	72
阿蘇山	54
火山、火口	47
仙酔峡	14
ロープウェイ	3
根子岳	3
阿蘇山その他	6
計	199
温泉	
内牧温泉	14
黒川温泉	14
地獄温泉	12
垂玉温泉	10
月廻り温泉	5
高森温泉	3
栃木温泉	2
杖立温泉	2
温泉その他	17
計	79
水源	
白川水源	62
水源その他	7
計	69
大観峰・外輪山一帯	
大観峰	54
俵山	7
外輪山	5
計	66

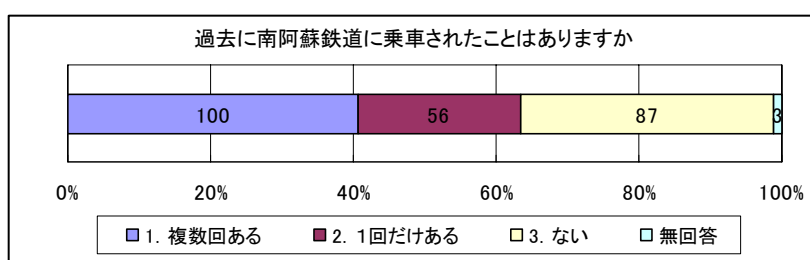
鉄道	
南阿蘇鉄道	13
立野駅のスイッチバック	11
SLあそBOY	3
鉄道その他	2
計	29
その他	
高森湧水トンネル公園	26
阿蘇ファームランド	24
一心行の大桜	19
阿蘇神社	13
高森田楽	10
久木野そば道場	9
阿蘇くま牧場	7
ミルクロード	6
カドリードミニオン	5
猿回し劇場	5
阿蘇望の郷	4
高森町	4
らくだ山	3
南阿蘇村	3
小国	3
美術館	3
その他	58
計	202
総計	644



## ○ 南阿蘇鉄道の乗車経験

応募者の約 6 割以上が南阿蘇鉄道の乗車経験をもっているが、南阿蘇鉄道に乗車経験のない応募者も 3 割以上ある。応募者の 9 割以上が阿蘇地域の観光を経験しているという状況を鑑みると、阿蘇地域における公共交通活性化の方向性として、阿蘇観光と南阿蘇鉄道との結びつけが今後の課題となるものと考えられる。

過去に南阿蘇鉄道に乗車されたことはありますか(択一)	
1. 複数回ある	100
2. 1回だけある	56
3. ない	87
無回答	3
<b>総計</b>	<b>246</b>



## ○ 南阿蘇鉄道の特徴やイメージ

応募者に対し、南阿蘇鉄道の特徴やイメージについて尋ねたところ、トロッコ列車の認知度が最も高く、また阿蘇の麓を走る車窓に対する好意的なイメージが多く寄せられており、阿蘇とトロッコ列車の PR 効果が浸透していることが窺える。

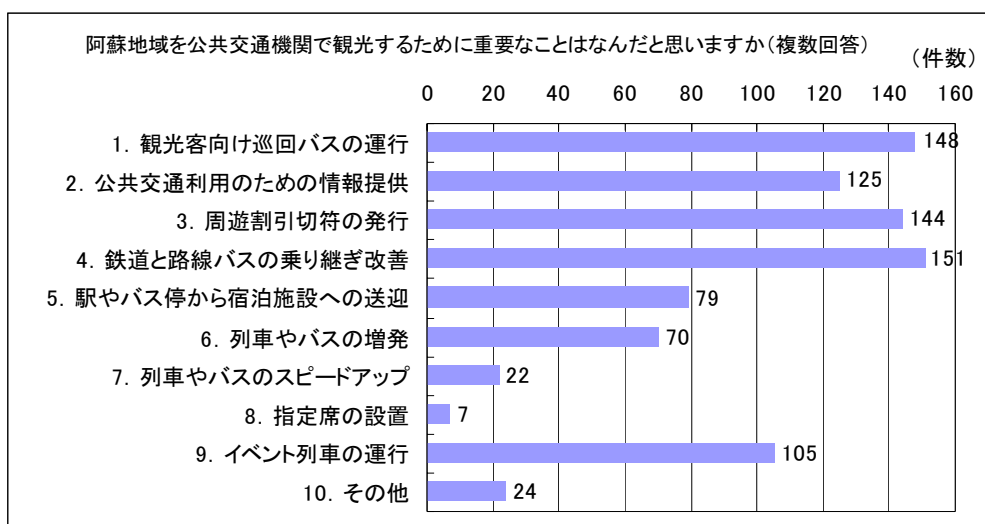
また、第一白川橋梁や日本一長い駅名の駅、温泉併設駅などの特徴のほか、沿線の観光資源を活かして魅力を高める経営努力に対するイメージに言及する意見もあった。

あなたが知っている南阿蘇鉄道の特徴やイメージがあれば教えてください(自由記述)	
トロッコ列車	103
のんびりとした車窓	92
日本一長い駅名	20
第一白川橋梁	19
温泉併設など駅に特徴	13
経営努力、地域密着	13
利用が不便	6
スイッチバック	4
高千穂方面への未成線	4
レールバス	3
あそボーイ	3
観光鉄道	3
第三セクター	2
沿線の水源	1
<b>総計</b>	<b>286</b>

### ○ 阿蘇地域における公共交通での観光に重要な点

阿蘇地域における公共交通での観光に重要な点として、鉄道やバスの運行に関する点や、運賃施策、情報提供などを中心に挙げられており、ハード面・ソフト面の両面から今後の充実が図られることが求められていることが窺える。

阿蘇地域を公共交通機関で観光するために重要なことはなんだと思いますか(複数回答)	
1. 観光施設を巡回する観光客向けバスの運行	148
2. 列車やバスの時刻表や路線図などの情報提供の充実	125
3. 交通機関や観光施設の周遊割引切符の発行	144
4. 鉄道駅と路線バスの乗り継ぎの改善	151
5. 駅やバス停から宿泊施設への送迎の充実	79
6. 列車やバスの増発	70
7. 列車やバスのスピードアップ	22
8. 指定席の設置(着席できる保証)	7
9. イベント列車の運行	105
10. その他	24
<b>総計</b>	<b>875</b>

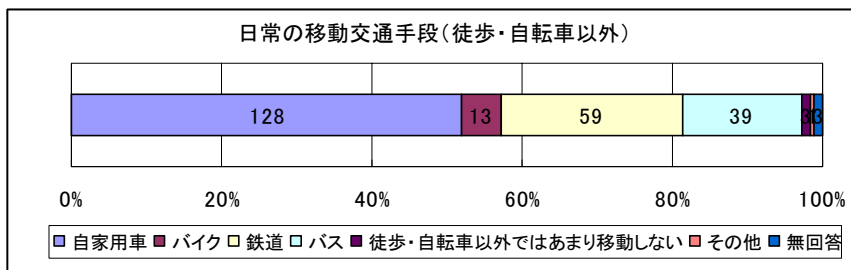


④ 公共交通に関する質問

○ 日常の利用交通手段

応募者の約 6 割が、日常の移動手段として自家用車、バイクを利用している。

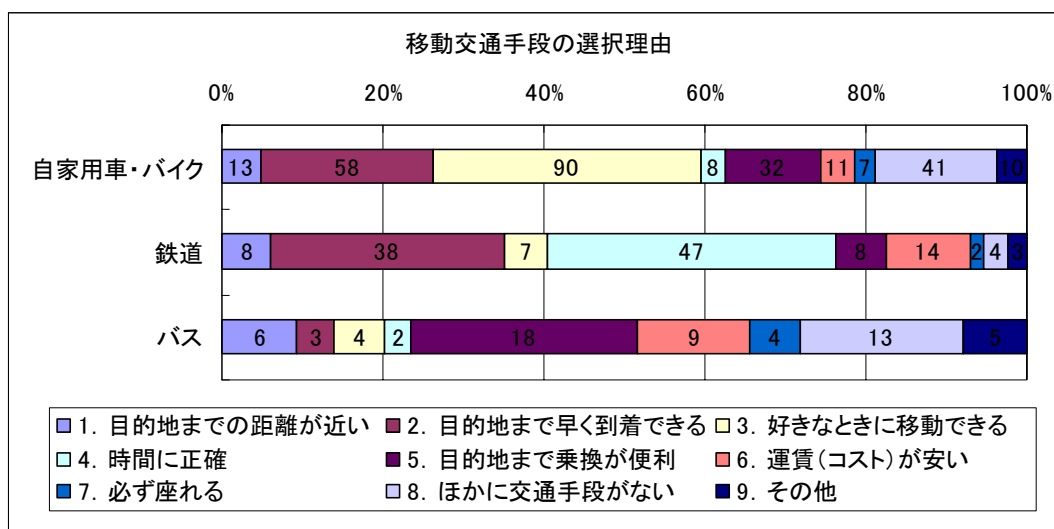
日常の移動(通勤・通学・買い物など)で、徒歩・自転車以外に最も良く使っていると思われる交通手段をひとつ選んでください	
自家用車	128
バイク	13
鉄道	59
バス	39
徒歩・自転車以外ではあまり移動しない	3
その他	1
無回答	3
<b>総計</b>	<b>246</b>



また、日常の交通機関の上位選択理由としては、「自家用車・バイク」「鉄道」「バス」利用者それぞれで以下のとおりである。

自家用車・バイク及び鉄道利用者はいずれも速達性を重視しており、そのなかで自家用車・バイク利用者は移動の自由さ、鉄道・バス利用者は時間の正確さを理由に挙げている。また、自家用車・バイク及びバス利用者はほかに移動手段がないと回答する比率が高いことも特徴的であるほか、バス利用者は目的地まで乗換が少ないことを利便性として考える比率が高くなっている。

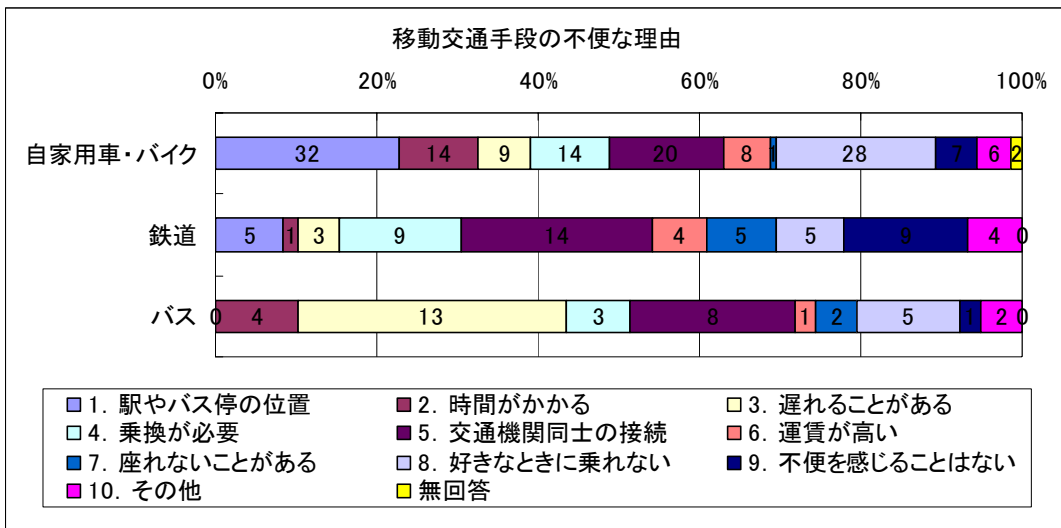
日常の交通手段を選択理由(複数回答)	自家用車・バイク	鉄道	バス
1. 目的地までの距離が近いから	13	8	6
2. 目的地まで早く到着できるから	58	38	3
3. 好きなときに移動できるから	90	7	4
4. 時間に正確だから	8	47	2
5. 目的地まで乗換がない、または乗換が便利だから	32	8	18
6. 運賃(コスト)が安いから	11	14	9
7. 必ず座れるから	7	2	4
8. ほかに利用できる交通手段がないから	41	4	13
9. その他	10	3	5
<b>総計</b>	<b>270</b>	<b>131</b>	<b>64</b>



○ 公共交通利用にあたって不便な点

「自家用車・バイク」利用者から見た公共交通での移動には、移動機会（駅やバス停の設置箇所や移動の自由さ）が課題として多く挙げられている。現在の鉄道利用者は交通機関同士の接続、バス利用者は定時性を一番の課題として捉えている。

日常の移動で公共交通機関を利用する際にもっとも不便だと感じることはなんですか(択一)	現在の利用交通機関		
	自家用車・バイク	鉄道	バス
1. 駅やバス停が利用する場所の近くにない	32	5	0
2. 時間がかかる	14	1	4
3. 遅れることがある	9	3	13
4. 乗換が必要	14	9	3
5. 交通機関同士の接続が悪い	20	14	8
6. 運賃が高い	8	4	1
7. 座れないことがある	1	5	2
8. 好きなときに乗れない(本数が少ない)	28	5	5
9. 不便を感じることはない	7	9	1
10. その他	6	4	2
無回答	2	0	0
<b>総計</b>	<b>141</b>	<b>59</b>	<b>39</b>



## ○ 公共交通利用の可能性

また、現在日常の交通手段として自家用車・バイクの利用者について、不便な点を改善した場合の公共利用可能性について尋ねたところ、約 95%が公共交通の利用意向を示しており、今回の試乗モニターの募集に際しては、全体的に公共交通への関心の高い層からの応募が中心となったことが示された。

もしも前問で選んだ不便な点を改善した公共交通機関が整備されたら、現在の移動方法を見直してみるきっかけになりますか。	自家用車・バイク利用者
1. そう思う	67
2. 条件次第では考えると思う	67
3. 思わない	1
4. わからない	3
無回答	3
<b>総計</b>	<b>141</b>

